

「恐竜ワールド」構想



む か わ 町

平成27年12月

— 目 次 —

はじめに	1 頁
1. むかわ恐竜化石の経緯	2 頁
2. むかわ恐竜化石の意義	3 頁
3. 恐竜ワールド構想の基本理念	4 頁
4. 恐竜ワールド構想の基本目標	5 頁
5. 恐竜ワールド構想の施策	6 頁
参考資料	8 頁

はじめに

むかわ町は、広大な森林と大地が広がる中を、清流鷲川が北から南へ流れ、太平洋にそそぐ豊かな自然につつまれたまちです。その恵みを財産として、次世代へ引き継ぐために自ら考え、行動し、協働の精神の基に力を合わせ、「持続可能で安心して暮らせる住みよいまちづくり」を基本理念にまちづくりを進めています。

むかわ町まちづくり計画の基本理念に基づいて、本町の将来像である「人と自然が輝く清流と健康のまち」を実現するため、その取り組みのひとつとして、今般、国内外から注目を集め、今後の研究成果に大きな期待が寄せられている貴重な恐竜化石を活用し、シンボル事業として(注1)「恐竜ワールド構想」を推進していきます。

なお、2003年に町内穂別稲里から発見された脊椎動物化石は、ハドロサウルス科恐竜の化石(以降「むかわ恐竜化石」とする。)であることが判明し、その後の発掘調査では、国内屈指の全身骨格化石となることが解りました。

むかわ恐竜化石には、学術的・教育的・資産的・産業的意義が期待されており、「恐竜ワールド構想」は、恐竜化石の持つ価値に着目した「恐竜化石を活かしたまちづくり」、「地元力を高めるまちづくり」、「持続可能なまちづくり」の3つの視点により、進めていくこととします。

また、本構想を実現するためには、町民の参画が不可欠であり、将来にわたって持続させていくには、町民と行政が協働できる体制づくりを整備する必要があります。

本構想では、具体的な事業展開を進めるための基本的方向や推進体制のあり方等を掲げ、地域資源を活かした活気あふれるまちづくりを実現するために策定するものです。

注1) 恐竜ワールドとは、

むかわ町穂別は、古くからアンモナイト化石など海棲生物の化石の産地として知られていましたが、1977年のクピナガリュウ化石発掘を契機として、博物館整備など「まちの宝」として化石を活かした「森と化石とロマンの里づくり」を行ってきました。町立穂別博物館では、地元産の化石の収集、展示、調査研究を進め、地域や化石愛好者の協力も得ながら、貴重な新種発見などの成果を得ています。

街中には「進化の道」・「メタセコイヤ並木」・「道民の森つつじ山公園」・「(注2)ホッピー公園」などに化石に関する展示なども行い、町民や訪問者に親しまれてきました。

今回の恐竜化石発掘により、白亜紀恐竜時代の海と陸の両方の生物化石が揃い、しかも、全国あるいは世界に誇れる「全身骨格化石」となる期待の星であることから、これまでの多年にわたる貴重な化石資源と合わせて、この時代のすべて、そしてむかわ町全域をステージとする「恐竜ワールド」として展開していくものです。

「恐竜ワールド＝むかわ町」

注2) ホッピーという名称は、1977年に発掘されたクピナガリュウ化石「ホベツアラキリュウ」に対する別称で、一般から募集した愛称です。札幌の方が命名者で、博物館ホールの復元模型を展示した1982年に命名されています。

1. むかわ恐竜化石の経緯

恐竜は、今からおよそ6600万年前に、地球上から突然に姿を消した生き物です。

むかわ町は、これまでも多くのアンモナイトやクビナガリュウ、モササウルス、カメ等の化石が発見されており、新種として特定される貴重な化石が産出する地域として知られてきました。

むかわ恐竜化石は、2003年にむかわ町在住の堀田良幸氏によって発見され、むかわ町穂別博物館（以降「町立博物館」とする。）に7点のノジュールと断片的な化石が寄贈されました。この化石は脊椎動物であることはわかっていましたが、詳細な分類ができず、暫定的にクビナガリュウのものとして大切に収蔵されていました。

2010年から2011年に町立博物館において、佐藤たまき准教授（東京学芸大学）が行った調査によって、この化石が恐竜化石である可能性が示され、2011年の小林快次准教授（北海道大学）による調査によって‘ハドロサウルス科恐竜化石’であると判明しました。

その後、北海道大学総合博物館（以降「北大総合博物館」という。）と連携し、北海道（北海道林務部や北海道胆振総合振興局）のご協力も得て、2013年から2014年にかけて発掘調査が行われ、およそ6トンの岩石を回収し、これまでのクリーニング作業によって、尾椎骨、後肢の骨と遊離した歯や上顎骨の一部が確認されており、回収した岩石の連結状態や量から判断し、国内でも有数の‘全身骨格’であることが期待され、文部科学省、北海道教育委員会の文化財担当部署など多方面から注目を集めることとなりました。

‘ハドロサウルス科恐竜’とは、植物食恐竜で、白亜紀後期に繁栄した恐竜として有名です。むかわ恐竜化石は、‘全身骨格’が揃う希少性に加え、尾椎骨の一部分に大きな突起があり、今まで発見された他のハドロサウルス科恐竜には見られない特徴があるため、新しい種類の恐竜である可能性が高いと考えられています。

本町では、むかわ恐竜化石に関する普及講演会、魅力あるまちづくりセミナーなどを実施してきました。また、役場職員有志による研究会を設立し、先進地視察を行う等、恐竜化石を活かしたまちづくりを進める準備活動も行ってきました。

2014年9月1日、本町と北大総合博物館は、恐竜化石の調査研究や地域資源としての活用について、相互協力する協定書を締結しました。

協定の内容は、

- ①恐竜をはじめとする古生物学の普及啓発
- ②科学技術・文化の振興
- ③地域振興
- ④学校教育・生涯学習
- ⑤その他両者の協議に関する事項

の5項目です。

2. むかわ恐竜化石の意義

① 学術的な意義

むかわ恐竜化石が、全身骨格化石として全貌が明らかになれば、地球の歴史46億年のダイナミズムの一場面として、そこに盛衰する生命の連鎖、特に恐竜の存在は、現代を生きる人間にとっても大きなロマンの対象であり、特にハドロサウルス科は‘植物食’に特化することで世界的に分布を広めたグループであり、むかわ恐竜化石の研究は国内のみならず、アジアや北米のハドロサウルス科の進化と生態を解明する上で重要な化石標本となります。

また、むかわ恐竜化石は、約7200万年前のものであることから、絶滅直前の恐竜大繁栄時代の多様性の証言者であり、白亜紀後期の全身骨格としては‘日本初’となることから、大変貴重な化石標本です。

② 教育的な意義

青少年の理科に対する興味や自然環境への関心を高める材料となる実物、それも国内屈指の‘恐竜化石’が発掘された白亜紀の地層にふれることができる発掘体験など、教育プログラム企画・運営が期待できます。

さらに恐竜化石をきっかけとして、むかわ町が有するその他の化石や自然、歴史などに興味を持ってもらえる展開が可能となります。

世界的にも研究価値の高いむかわ恐竜化石であり、研究にあたっては北海道大学とむかわ町が中心となり、他の研究機関との国際的な連携構築も考えられ、人材育成の場としても価値があります。

③ 資産的な意義

むかわ恐竜化石は、全長7～8mに達する大型恐竜であり、全身骨格が発掘されたと期待されていることなどを総合して考えると極めて貴重な化石であります。

また、むかわ恐竜化石が、‘新種である’と確認されれば、世界でたった1体の全身骨格化石の可能性もあり、資産として多大な価値となるでしょう。

さらに、むかわ恐竜化石には、国内外から注目が集まっており、大手メディアからの取材も数多く行われてきました。今後も調査・研究結果が発表されるたびに、むかわ恐竜化石とともに本町の話が発信されることが期待されます。

④ 産業的な意義

学術的な価値、教育的な価値を活かした、多種多様な展開が可能となり、むかわ恐竜化石の複製レプリカを作り、貸出・販売を行うことができます。恐竜は、特に子どもを中心に人気があるグッズとして商品価値があり、ブランド化をすることで、レプリカ、フィギュア、キャラクターグッズなどのお土産品、むかわ恐竜化石にちなんだ地域グルメなどへの産業化が見込まれます。

⑤ 戦略的な意義

人口減少により地方の過疎化が進み、著しい高齢化の進展により、地域社会が成立しなくなると言われている今日、地方創生の取組みが日本全国で進められています。地域資源を活かし、耕（おこ）して、まちの宝としていくこの構想は、本町の地方創生総合戦略の重要な柱としても期待されており、生き残りをかけた戦略としても大きな意義を有しています。

3. 恐竜ワールド構想の基本理念

むかわ恐竜化石は、近年の人口減少、少子高齢化が進む本町において‘自立したまち’を実現するため、「未来につなぐ夢と希望」の資源として大きな可能性を秘めた貴重な財産であり、クピナガリュウを始めとした貴重な化石を含め、まちづくりの柱のひとつとして、町民が参画し、協働に活かすため、次の2点を基本理念とします。

① 化石にふれあい、化石に学ぶ ～恐竜化石の発見を郷土愛を育む活動へ～

むかわ恐竜化石が、世界的に見ても貴重な学術研究資料であることは、町民にとっても大きな誇りとなるものであり、子どもからお年寄りに至るまで、広くその価値について普及・周知することは、町全体の自慢として、町民の郷土愛を育む活動へとつなげます。

また、継続的にむかわ恐竜化石の具体的な姿を明らかにすることができる学術研究体系を確立し、恐竜化石情報を発信するなど、恐竜や化石に大きな興味を持つ方々から「聖地」として支持され、常に新しい体験と発見の場となるよう追求しながら、地域の魅力や知名度を高めます。

② 化石を活かし、化石と生きる ～恐竜化石の発見を持続可能なまちづくりへ～

むかわ恐竜化石の調査研究が進み、世界でも希少な全身骨格が展示された際には、多くの人達が本町を訪れることが予想されます。

このような機会に向け、町民と行政が連携して、魅力ある観光・交流・生産・経済活動を創造します。郷土愛溢れる町民が主役となり、むかわ恐竜化石と本町に存在するあらゆる資源を結び、創意工夫と潜在力を発揮して、‘わがまちの価値’を高めていきます。持続可能で町民が潤うまちづくりの核として、そして次世代へつなげていく財産として、むかわ恐竜化石を活かしていきます。

4. 恐竜ワールド構想の基本目標

‘恐竜ワールド構想’は、本町まちづくり計画の基本理念に基づき将来像を実現するためのシンボル事業です。

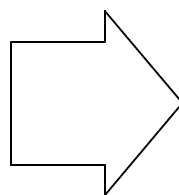
本構想の目標を整理すると、まちの宝であるむかわ恐竜化石を始めとする貴重な化石を題材に様々な学習・実践の場を提供することとなります。

そのための具体的な環境づくりは、町内外での‘交流の機会’を創ることであり、ハード・ソフト両面の事業を展開することによって、交流事業の実施につなげることが可能となってきます。

本構想は、むかわ恐竜化石にふれあう交流を通じ、町民協働の拠点を形づくることで、まちづくりを推進し、さらに地域経済の活性化を図り、基本理念を達成・実現するために5つの基本目標を定めます。

【基本目標】

- ①町民参加と協働
- ②地域資源と既存施設等の連携活用
- ③恐竜化石等の有効活用
- ④資料展示、普及による交流の充実
- ⑤学術研究機関との連携活動



恐竜ワールド構想

5. 恐竜ワールド構想施策

むかわ町の道路交通網としては、町の南側には日高自動車道（高規格道路）が、北側には道東自動車道（高速道路）の2路線がアクセスする立地条件にも恵まれており、広域観光の足がかりとなる条件が整っています。

むかわ恐竜化石を含め、アンモナイト、クビナガリュウやモササウルス、カメ等の化石が多数発見されている本町では、主に白亜紀の生き物の化石を埋蔵する地層が広く分布し、‘白亜紀化石のふるさと’となっており、地域そのものが‘野外博物館’としての性格を有しています。

むかわ恐竜化石を目的に、来訪者が増加し、交流する機会も多くなります。このことから、町民による‘おもてなし’の心の醸成が必要であり、‘まちの経済の活性化’など様々な波及効果が期待できるよう‘恐竜ワールド構想’を進める次の施策を展開していきます。

① 町民参加と協働

‘恐竜ワールド構想’において、持続的に事業を展開するためには、町民の理解と協力が不可欠であり、町民と行政による協働体制の確立が必要です。

むかわ恐竜化石の利活用によって生まれる経済的効果が、地域内で循環し、町民に還元されることが重要であり、町民の期待と希望を活力とした‘郷土愛’を育む体制をつくります。

また、むかわ恐竜化石が‘まちの宝’として、町民の生きがいとなる生涯学習機会を創生します。

- ・ ‘恐竜ワールド構想’を実施する協働推進体制の構築
- ・ 町民気運の向上推進として町文化財として指定
- ・ 町立博物館協力会を含めたボランティア等の育成（資料整理等）
- ・ 恐竜化石を含めた学習機会の提供
- ・ 恐竜化石デイ（まつり）等のイベント開催
- ・ 恐竜化石出前講座の実施
- ・ まち（町民を含めた）全体での普及宣伝の実施

② 地域資源と既存施設等の連携活用

むかわ恐竜化石は幅広い世代での興味・関心を高める資源ですが、これらの化石の観覧・体験だけでなく、来訪者に楽しく長時間滞在してもらうには、まちの自然や食材等、既存の地域資源や施設等と連携した一体的な事業展開を進めます。

- ・ 地域資源（恐竜）案内ガイドの育成
- ・ 地域（恐竜）グルメ開発とパンフレット等の作成
- ・ 恐竜イメージキャラクターの募集、各施設でのPR
- ・ 起業をうながす恐竜関連グッズ等の開発誘導
- ・ 誘導及びPR看板等の整備（四季の館、(注3)進化の道、国道沿い等）
- ・ 町立博物館、地球体験館、野外博物館の連携研究
- ・ 町内周遊コース等の設定（四季の館⇄穂別キャンプ場等）
- ・ 道の駅化への研究

注3) 進化の道とは、穂別市街地を縦断する道道穂別鶴川線のことであり、平成3年から平成4年にかけての拡幅工事に合わせて、街路灯にはクビナガリュウやモササウルス、アンモナイト等の化石を乗せ、歩道の街路樹には化石の木と言われるメタセコイヤを植え、ポット植樹柵には、地球の歴史が学べる恐竜や古代生物のレリーフをはめ込んであるメインストリートが約900メートルに渡り整備されています。

③ 恐竜化石等の有効活用

むかわ恐竜化石の発掘現場は、臨場感やスケール感を演出するための有効な資源であり、恐竜化石以外にも多くの化石が産出する可能性があることから、新たな体験型資源としての活用を目指します。

発掘現場を町民、地域、行政などが協働して保全することで、教育・学習に活用されるとともに、新たな観光資源として地域振興に活かします。

- ・恐竜化石発掘体験（及びエコ、森林）ツアーの開催
- ・恐竜化石発掘現場用地買収及び発掘現場施設整備（体験ツアー用駐車場等）
- ・発掘現場の再現（モニュメント設置等）
- ・ジオパーク化への調査研究

④ 資料展示、普及による交流の充実

町全体を恐竜ワールドと位置づけ展開していきます。中核となる交流拠点の整備と既存の地域（化石）資源を活用した‘おもてなし’交流ネットワークの整備を図ります。

恐竜ワールドの拠点となるシンボル施設として、町立博物館を整備し、既存施設、進化の道、道民の森と合わせて‘中核ゾーン’とした地域づくりを進めます。さらに、むかわ町全体からの誘導施策を模索し、まち全体への波及効果を高めます。

今回発掘されたむかわ恐竜化石を筆頭に、これまで発掘された貴重な地元産化石を、まちの宝として適切に管理・保存していくとともに、学術研究資料として展示・公開していくことは、本町の使命です。

地元産出の新種化石や貴重な資料など、その価値や希少性について、展示内容や普及の充実を図ります。

- ・町立博物館等の展示を含めたりリニューアル
- ・施設連携（及び今後の利活用）を検討
- ・町全体の恐竜化石等のPR表示
- ・恐竜化石を含めた貴重な化石として国の天然記念物の指定申請
- ・こどもに興味をもたせる展示及び魅せる展示の工夫
- ・白亜紀化石等も展示

⑤ 学術研究機関との連携活動

博物館と学術研究機関等の研究者の方々との交流を通じて、町民や子どもたちに地元産化石の価値や希少性などを認識してもらい、‘まちの宝’としての誇りをもち、将来への夢や希望を育みます。

- ・発掘調査・クリーニング作業における連携協力
- ・学術・研究発表の共同実施（情報発信等）
- ・学校教育における授業への活用
- ・化石レプリカ製作や展示及び企画の共同実施
- ・恐竜化石教室の実施（夏休み・冬休み）
- ・恐竜化石検定の実施
- ・恐竜シンポジウムの開催
- ・恐竜や化石研究者から支持される環境づくり
- ・国及び北海道との支援連携

恐竜ワールド構想の概要(1)

目的

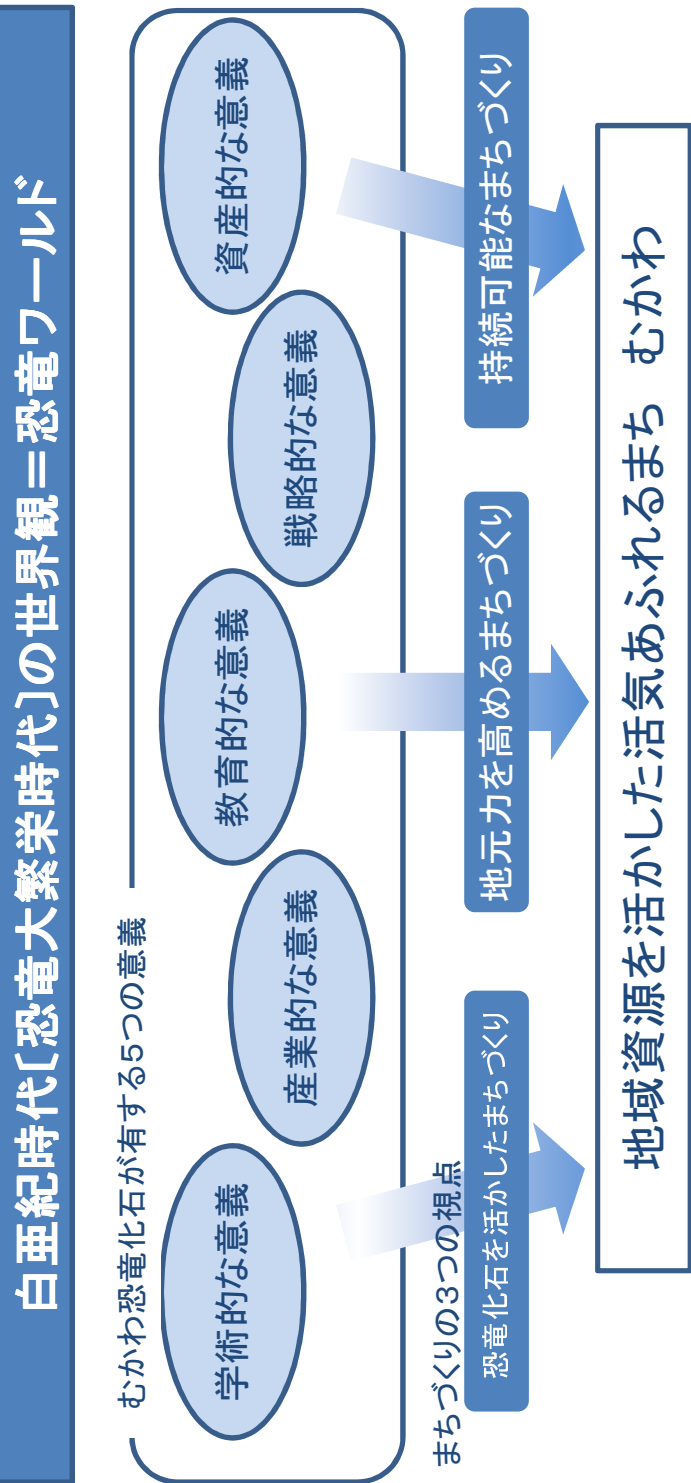
むかわ町まちづくり計画の基本理念に基づき、「人と自然が輝く清流と健康のまち」を実現するため、国内外から大きな期待が寄せられているむかわ恐竜化石(注1)などの化石資源を活用し、まちづくりのシンボル事業として‘恐竜ワールド構想’を推進

注1:むかわ恐竜化石とはー2003年に町内穂別稲里地域から発見された脊椎動物化石、その後の発掘調査によって、ハドロサウルス科に属する国内屈指の全身骨格化石であることが判明。現在も継続した調査・研究により全貌を解明中。

背景

- ①むかわ恐竜化石を含め、これまでもクビナガリュウやモササウルス、アンモナイトなど貴重な化石を多数産出
- ②豊富な地域資源を活用し、深刻な人口減少、過疎化・高齢化の進展などの諸課題に対処

めざす姿と推進方針



恐竜ワールド構想の概要(2)

基本理念

- ① 化石にふれあい、化石に学ぶ ～恐竜化石の発見を郷土愛を育む活動へ～
- ② 化石を活かし、化石と生きる ～恐竜化石の発見を持続可能なまちづくりへ～

①町民参加と協働

②地域資源と既存施設等の連携活用

③恐竜化石等の有効活用

④資料展示、普及による交流の充実

⑤学術研究機関との連携活動

基本目標

‘恐竜ワールド構想’を進めるための主な施策

町民との協働

協働体制の構築、ボランティア育成、学習機会の提供、イベント等創出、まち全体での普及宣伝実施 など

地域資源・施設との連携

案内ガイドの育成、グルメやグッズの開発、イメージキャラクターの創出、誘導・PR看板等の整備 など

恐竜化石の活用

恐竜化石発掘体験ツアーの開催、発掘現場施設整備、ジオパーク化への調査研究 など

展示・普及と交流

博物館等の展示を含めたリニューール、天然記念物の指定申請、様々な施設連携の検討 など

学術機関との連携

発掘調査・クリーニング作業における連携協力、学術・研究発表の共同実施、学校教育への活用 など

恐竜ワールド構想の枠組み

恐竜ワールド構想イメージ図

恐竜ワールド構想

- 視 点**
- ・恐竜化石を活かしたまちづくり
 - ・地元力を高めるまちづくり
 - ・持続可能なまちづくり

目標① 町民参加と協働

郷土愛の醸成、生涯学習機会の創出

目標② 地域資源と既存施設等の連携活用

来訪者の満足度向上、滞在時間延長

目標③ 恐竜化石等の有効活用

化石資源の保全・活用、ジオパーク化への調査研究

目標④ 資料展示、普及による交流の充実

資料の管理・保存、学術研究の推進

目標⑤ 学術研究機関等との連携活動

資源価値の情報発信、誇りの醸成

【恐竜ワールド構想の推進】

「恐竜ワールド」の実践

むかわ町全域をステージとした展開の推進

たんぼぽ公園

ぼばんた市場

鶉川河口干潟

など

イチョウ並木

道の駅
四季の館

例えば、

恐竜イメージキャラクタの募集・PR

町内周遊コース等の設定

誘導及びPR看板等の整備

商店街の散策・買い物・飲食等

展示、普及活動、イベント開催等

など

地球体験館

アースギャラリー

樹海温泉はくあ

穂別キャンプ場

など

進化的道
(メタセコイア並木)

町立博物館

恐竜化石まつり、恐竜化石デイズ、恐竜化石シンポジウム、講演会、恐竜化石出前講座の開催 など

恐竜等化石にちなんだフィギュア、レプリカ、Tシャツ、おもちゃ等の開発・販売 など

むかわ産食材を使用したグルメの開発・販売など

各種情報発信、案内ガイドの育成、まちの美化活動推進 など

地域資源を活かした活気あふれるまち むかわ

むかわ町
むかわ町恐竜のまちづくり推進ワーキンググループ
むかわ町地域おこし協力隊 など

恐竜ワールド推進プロジェクトチーム